

膳城跡（前橋市）

築城年代：嘉吉年間（1441年～1444年）、築城者：善氏

これは膳城跡の北側にある公園にあった案内板で、近くに前橋市粕川歴史民俗資料館や前橋市粕川出土文化財管理センターもある



これは公園の滑り台/櫓の形をしている

[video](#)

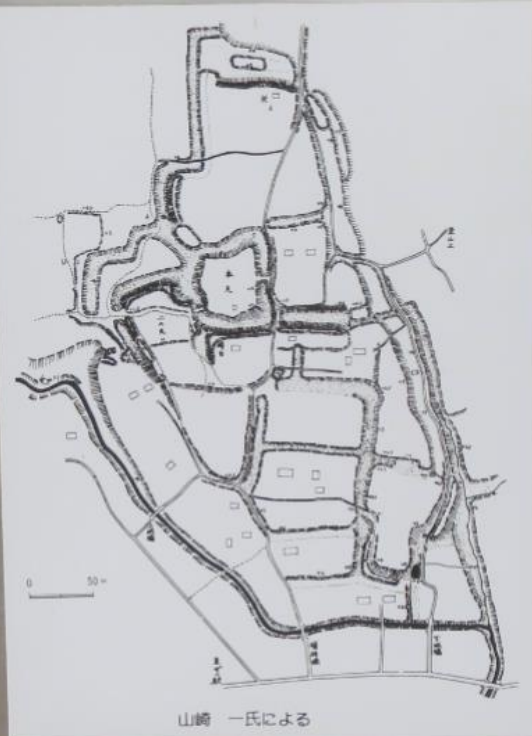


「膳城素肌攻め」で有名らしい

群馬県指定史跡 ぜん じょう あと 膳城跡

所在地 前橋市粕川町膳 83-2

指定年月日 昭和 24 年 3 月 11 日



膳城跡は、うすぎはら 兎川と湧水による湿潤な谷地の中の丘陵性台地の先端部に位置する。南北約 500m、東西 300m ほどの範囲の中に濠や土塁をめぐらし、本丸の他、数区画からなるくわ 郭を形成している。

この城の築城年代は明らかではないが、鎌倉時代の文書に「膳」氏の名が見える。しかし、この膳城に居城していたかについては明らかではない。その後、室町時代から戦国時代にかけての文書にも「膳」氏は度々登場する。戦国時代には、関東地方の覇権をめぐる北条、上杉、武田の戦記物に度々「膳」の名が見る。現在見ることのできる膳城の姿が形成されたのは、この戦国時代末期と考えられる。特に天正 8 年 (1580) 武田勝頼による東上州進攻の際の、膳城をめぐる攻城戦は、「膳城素肌すま ぜめ」として著名である。

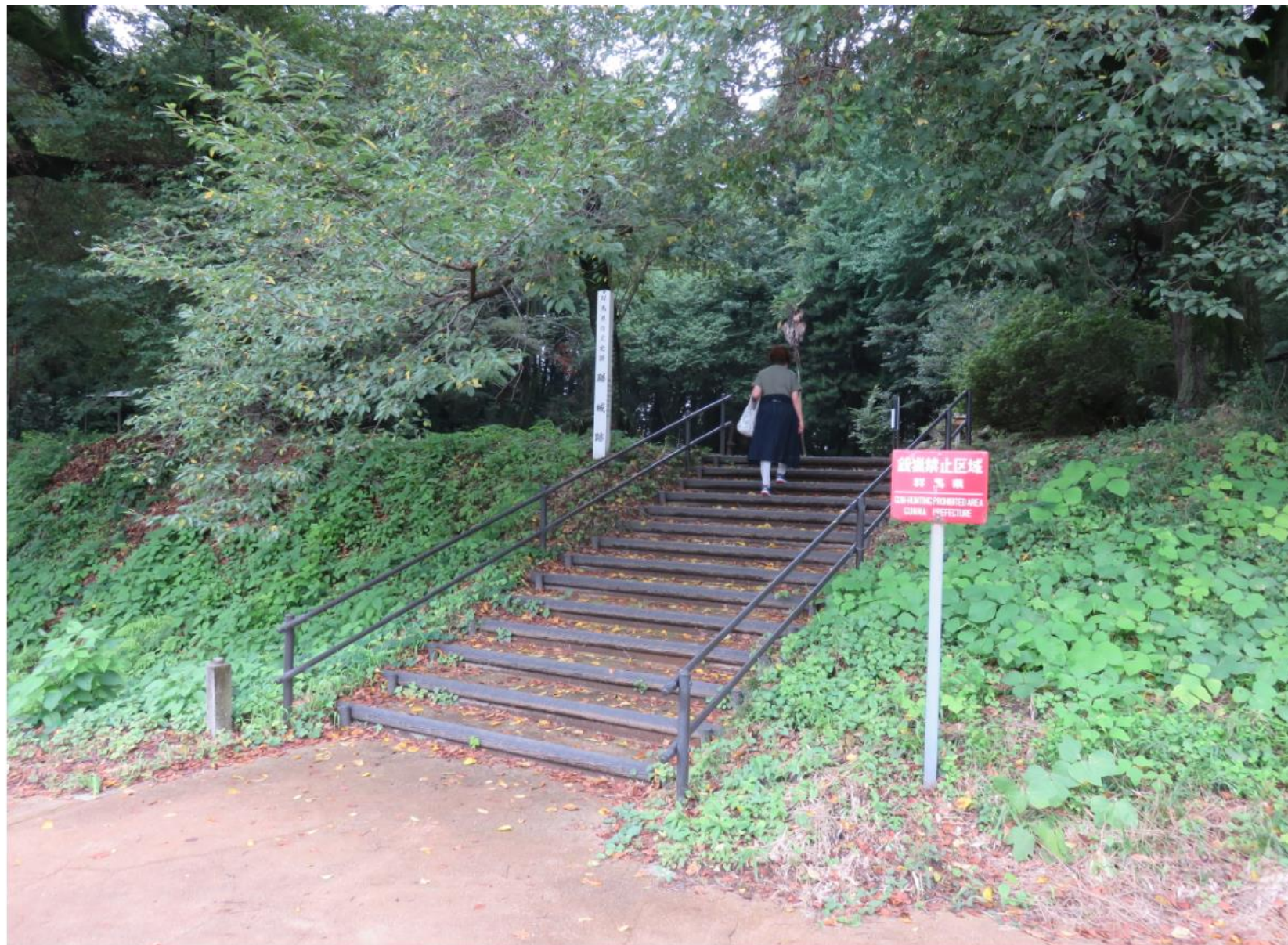
膳城はこの戦いの後、廃城となったと伝えられる。本丸周辺の濠や土塁は当時の姿を良く残している。

前橋市教育委員会

縄張図/本丸の右手（東側）から二の丸、西虎口（搦手）と進んでみよう



ここが本丸の東側で、前方上段が本丸のエリア/標柱が立っている



そこで、左手（南方向）を見たところ/本丸を取り巻くように空堀が前方で右手に折れている/道路は堀切跡で、その左手は馬出曲輪のエリア



同じく、右手（北方向）を見たところ/道路は堀切跡で、その右手は馬出曲輪のエリア



本丸に上ってみよう

 [video](#)





ここが本丸のエリア/周囲には空堀が巡っている/西方向を見たところで、この先は二の丸のエリア



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ/説明板などがある



説明板の内容は上記の写真の通り

[video](#)



「膳城趾」とある



石碑には「史蹟膳城」と刻まれているようだ



本丸の西端で、前方の二の丸との間の内堀（堀切）を見下ろしたところ

 [video](#)



内堀に下りてみる



そこで、右手（北方向）を見たところ/前方で本丸（右手）を取り巻くように右手に折れている



二にの丸まる うち ぼり 本ほんの丸まる

内堀



その先に進んで見たところ/右手が本丸、左手は二の丸



そこで振り返って、南方向を見たところ/左手が本丸、右手は二の丸



本丸を右手に取り巻く先を見たところ/左上の建物は膳城跡の北側にある前橋市粕川出土文化財管理センター



右手に折れた先を見たところ/空堀は折れを持って続いている/右手が本丸

 [video](#)



そこで振り返ると、本丸（左手）を取り巻いて左手に続く内堀と、右手には二の丸の北側の袋曲輪（正面前方）を取り巻く空堀が見て取れる



折れを持った空堀の先は、前方（東側）で本丸（右手）を取り巻くように右手に折れている



本丸を回り込んで見たところ/前方は道路で、その向こうが馬出曲輪のエリア

 [video](#)



そこで、振り返って見たところ/左手が本丸/空堀が折れを持っているのが見て取れる



北側から南方向に見たところで、左手の道路は本丸（右手）と馬出曲輪（左手）との間の堀切跡と思われる

 [video](#)



反対に、南側から北方向に見たところ/左手は、本丸を東側から西方向に取り巻く空堀へと続いている

 [video](#)



これが本丸（右手）を取り巻いて東側から西方向へ続く空堀

[video](#)



その先に進んだところ/右手が本丸、左手は三の丸方向（南方向）



本丸（左手）と二の丸（右手）との間の内堀から三の丸方向を見たところ/左前方のマウンドは檜台のようだ

[video](#)



これは二の丸東端から本丸方向（東方向）を見たところ



そこで、右手を見たところ/前方のマウンドが櫓台



アップで見たところ



同じく、左手に内堀を見たところ



さて、これは二の丸で東側から西方向を見たところ/右前方に白い表示板が見える





本ほん 丸まる 西にし 虎こくち
に の まる
- 二 の 丸 -
□

二の丸の中央で、西方向を見たところ/前方方向に西虎口があるようだ

 [video](#)



同じく、左手の南方向を見たところ



同じく、右手の北方向を見たところ



同じく、振り返って東方向（本丸方向）を見たところ



さて、西虎口のある西方向に進む

 [video](#)



少し進むと、土橋がある/右手が二の丸と袋曲輪との間の空堀で、左手もその空堀が二の丸に並行している/土橋の前方に、白い表示板が見える



そこで、左手を見たところ/この右手に空堀が並行している



これは右手の、二の丸（手前）と袋曲輪（空堀の向こう）の間の空堀を見たところ



その先に進むと西虎口のような



そこで、右手を見たところ/右手の空堀が、袋曲輪（左手）に沿って前方で二の丸（右手）を取り巻くように右手に折れている



ふくろくるわ

袋曲輪

西にし虎こぐち口

二にのの丸まる

同じく、右手に土橋を振り返ったところ/右手にも空堀が並行しているのが見て取れる



さて、更に西虎口方向に進もう

 [video](#)



そこで、右手を見ると袋曲輪の外側を西側から北側へ取り巻く空堀が見える/右手が袋曲輪



同じく、左手を見たところ/こちらは二の丸の西側に並行する空堀の外側のエリア



そこで、振り返って見たところ/前方は二の丸方向で、左手が袋曲輪の外側を取り巻く空堀、右手は二の丸の西側空堀の外側のエリア



その先、この辺りからが西虎口か・・・



右手に折れて進むと、こんな塩梅



前方右手に前橋市粕川歴史民俗資料館の建物が見える場所に出た/ここが西虎口の入口（搦手）らしい

 [video](#)



そこで、振り返って西虎口を見たところ



これは西虎口の更に西側から、西虎口のあるエリアを見たところ

[video](#)



そこで、左手を見たところ/前方が前橋市粕川出土文化財管理センター、左手が前橋市粕川歴史民俗資料館



前橋市粕川出土文化財管理センター（左手）と前橋市粕川歴史民俗資料館（右手）の間には、こんな冠木門が立っていた

[video](#)



これが前橋市粕川歴史民俗資料館/デザインも膳城跡にピッタリ

[video](#)



こちらは前橋市粕川出土文化財管理センター/建物の周囲には堀跡らしき窪みが見られるが・・・/この辺りは北曲輪のエリア

[video](#)



これは前橋市粕川歴史民俗資料館の展示にあったキャプション [video](#)

膳城跡

県指定史跡 昭 24.3.11
粕川町膳 83-2 他



膳城跡は、兎川と湧水による湿潤な谷地の中の丘陵性台地の先端部に位置する。南北約 550m、東西約 300mほどの範囲の中に濠や土塁をめぐらし、本丸の他、数区画からなる郭を形成している。この城の築城年代は明らかではないが、鎌倉時代の文書に既に「善」氏の名が見える。しかし、この膳城に居城していたかについては明らかではない。その後、室町時代から戦国時代にかけての文書にも「善」氏は度々登場する。戦国時代には、関東地方の覇権をめぐる北条・上杉・武田の戦記物に度々「膳」の名が現れる。現在見ることのできる膳城の姿が形成されたのは、この戦国時代末期と考えられる。特に天正 8 年 (1580) 武田勝頼による東上州進攻の際の、膳城をめぐる攻城戦は「膳城素肌攻め」として著名であり、この城はこの戦いの後、廃城となったと伝えられる。本丸周辺の濠、土塁等は当時の姿を良く残している。

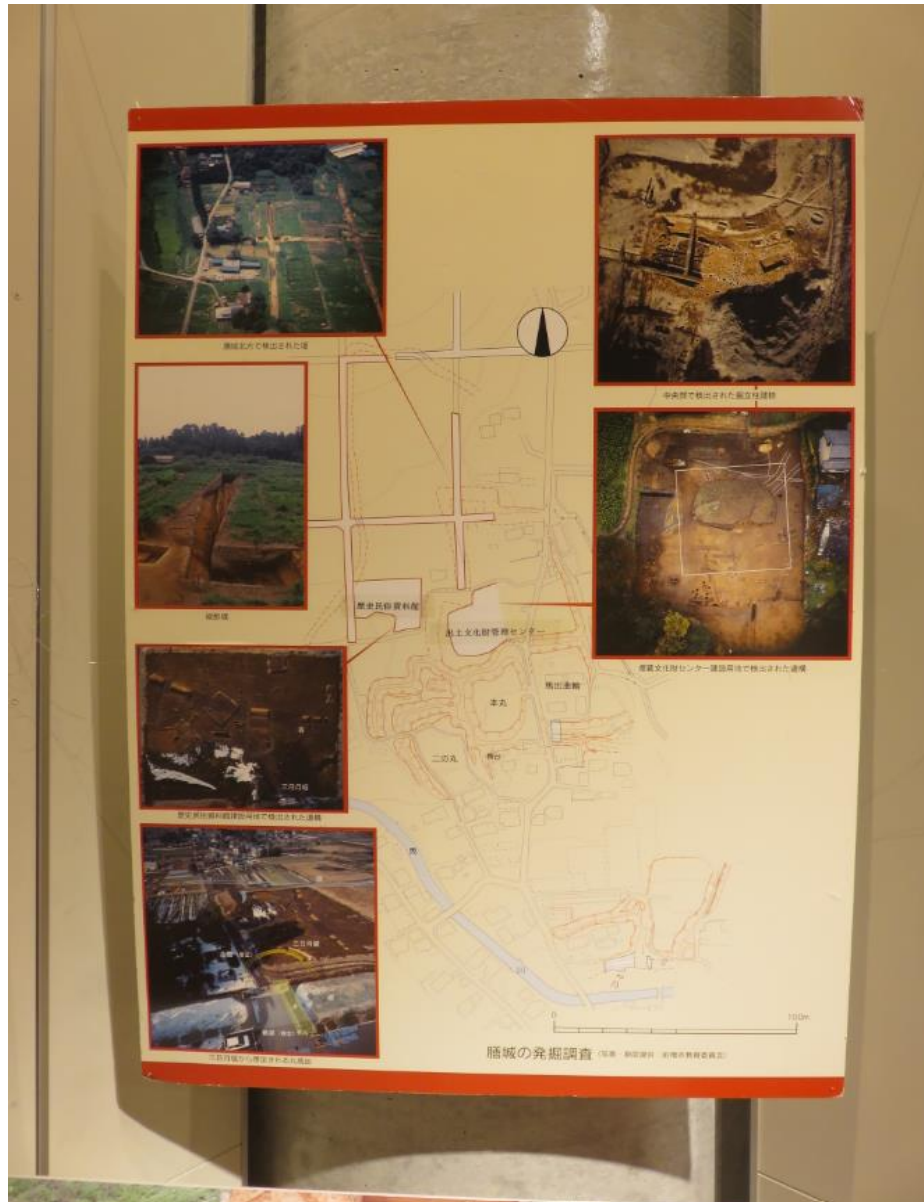
文献等に現れる善氏・膳地名など

西暦	年号	月日	出来事
1238	嘉禎 4	2. 7	將軍頼經入洛のことがあり、その随兵192騎が3列に並んだ38番目に善右衛門次郎が記されている。『吾妻鏡』
1258	正嘉 2	1. 1	堀飯の儀に庭上東座席65番目に善左衛門尉が着いている。『吾妻鏡』
	"	1. 7	善右衛門尉、善五郎左衛門尉、善兵衛太郎。『吾妻鏡』
		3. 1	善五郎左衛門尉康家 『吾妻鏡』
1455	享徳 4	2. 5	赤堀孫太郎政綱によって、善信濃入道 同三河守庶子等在所悉焼落 『赤堀文書』
1488	長享 2		由良氏によって善氏が戻ることができた。
1544	天文 1 3	1. 7	間の原の戦いで膳因幡守敗れる。『桐生地方史』
1560	永祿 3		新田衆の中に善彦太郎 鎧のかく、同中務少輔、同和泉守『関東幕注文』
1564	永祿 9		由良成繁が上杉方から離れ、北条方になる。その際の文書に「善山上之事書」には膳城は1470年頃、桐生氏に奪われるとある。
1572	元亀 3		城主三善氏代々に住す。善弥四郎康通、善備中守宗次等なり。 同年6月28日渋川、横瀬が善を攻める。善の家臣は城を守ることができず、 斉藤右近というものが、幼子春松丸を4歳を助けて厩橋に遁れるとある。 城は由良成繁のものとなり、大胡民部左衛門と渋川主膳を置く。
1575	天正 3		上杉謙信書状に「善山上女淵付落居候」とある。
1579	天正 7		北条氏政が由良國繁に当てた書状に、「善について、前々のごとく、善に 与え、由良の与力とする」とある。 武田勝頼巡検のさい素肌にて攻められ落城した。『上野古城塁記』
1580	天正 8		甲陽軍艦品第 5 6 に「善の城徒膚攻之事」
	"	10. 12	上杉景勝宛文書で武田勝頼は「9月20日、善の地に押し寄せ、たちまちに 打ち破る。城主河田備後守をはじめとして立てこもる千余人を打ち果たし、 帰陣した。」とある。

縄張図



発掘調査の写真



珍しい「目が顔の前にある馬」の埴輪



資料2 目が顔の前にある馬

馬は本来植物な動物で、視野を広くするため、鼻を中心として顔の左右の両側に付いています。埴輪の馬も多くはそういう表現をしています。(白馬や一毛馬、近江馬や越前馬)

ところが、目が顔の前につく埴輪馬がいます。

白馬や近江馬や一毛馬等の埴輪馬、多摩山古墳群4号古墳埴輪馬がその代表です。いずれも、今世紀前半から中期頃のものです。ところが、群馬県に属するもので、出土地は不明ですが、寛政5年(1793年)まで熊手町で調査をしていた奥のこしりによって、群馬県中野市埴輪古墳群で出土したものではないかと推測されています。「白馬馬」や「多摩山馬」よりかなり大型で、馬の體りもよく表現されています。更に土質の差を下げていることから、そんなに新しい種類の埴輪馬ではないと考えられます。多摩山古墳群には、目が顔の前にある馬が1つだけあります。

群馬県中野市埴輪古墳群
出土品

埴輪馬
群馬県中野市埴輪古墳群
出土品

参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/010gunma/099zen/zen.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/gunma/kasukawamura.htm>

<https://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/zen-joy/>

<http://www.kit.hi-ho.ne.jp/nagae/zen.html>

<http://www.zephyr.dti.ne.jp/~bushi/siseki/zenjo.htm>

<http://www9.wind.ne.jp/fujin/rekisi/siro/maebasi/zen/zen.htm>

<http://www.asahi-net.or.jp/~qb2t-nkns/zen.htm>

<https://ameblo.jp/napo-jou/entry-11712041013.html>

<https://blog.goo.ne.jp/mugiide/e/3d088bffb161b91ce12bdadd64a1a0fa>

<http://fanblogs.jp/shirononagori/archive/256/0>

<http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-850.html>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/gunma/shan-cheng>

<http://www.obayoshi30.sakura.ne.jp/Zenjo.html>

<http://4619.web.fc2.com/shiro287.html>

<http://www.xn--b-qfu4au7hq634c7ydh29d.com/entry49.html>

http://hanatanbou2.web.fc2.com/zen_zyo.htm

<http://chiezoshiro.ojaru.jp/kanto/gunma/zen.html>

<http://kdshiro.blog.fc2.com/blog-entry-1456.html>

<https://yamashiro2015.blog.fc2.com/blog-entry-851.html>

